

地球温暖化の影響（日本）

①気候変動や海面の上昇

冬期の寒気の吹き出しが弱まり、南岸を通過する低気圧の頻度が増加して、太平洋沿岸沿いの降水量が増加すると見込まれ、現在、降水量の多い地域では降水量がますます増加し、少ない地域ではますます減少します。

海面上昇は、1900年に比べCO₂濃度が倍増した場合、日本海沿岸で約20～40cm、太平洋沿岸で約25～35cmと予測されています。

②海面の上昇による影響

海面が30cm上昇した場合、現存する砂浜の57%が消失すると見込まれる。

（1m上昇した場合は90%が消失）

また、満潮位以下の国土面積が増えるので、安全水準等の維持対策が必要となります。

③健康への被害

マラリア等の媒介感染症の発生地域、発生数が増加すると考えられ、マラリアを媒介するハマダラカの生息域の北上、活動の活発化により亜熱帯地域で大きな被害が生じる可能性があります。

また、熱中症や熱射病が増加することも考えられます。

④自然環境への影響

温暖化により今後100年間に平均気温が3℃上昇するとすれば、現在の生態系分布は緯度方向に約500km（毎年5km）、標高では500m（毎年5m）は移動しなければなりません。

これにより、生息域が小さく細分化され孤立化した種では絶滅の危険があります。

⑤食料生産への影響

西南日本では、ジャポニカ米の栽培が適さなくなり、インディカ米のより温暖な気候に対応できる性質を取り込むなど新たな品種の開発等が必要となると考えられます。